

中国からタイへの調達拠点分散にかかる動向および
信用金庫取引先の為替変動リスクへの対応状況に
ついて

本レポートでは、信金中金の海外駐在員等が最新のトピックスについて報告します。
今回は、タイに進出している信用金庫取引先から聴取した、中国からの調達拠点分散に伴う在タイ信用金庫取引先の声と、足許のタイ市場金利、為替状況への対応についてお伝えします。

1. 中国からの調達拠点分散に伴う在タイ信用金庫取引先の声

中国は長らく世界の工場と呼ばれ、世界の主要な部品・原材料の製造・調達拠点として機能してきました。しかし、近年、中国でも人件費が上昇しており、将来的に製造原価が高騰するリスクがあるほか、アメリカの貿易関税の引き上げ等地政学リスクが高まっています。「チャイナプラスワン」として中国以外の国への拠点分散が注目されている中、前述の状況下で中国からの今後の供給を懸念し、企業が調達拠点を東南アジアへ分散させる動きが高まっています。

調達拠点分散の動きが高まる中、人件費の安いベトナム・インドネシアと並び、日系サプライヤー網が発達しているタイが注目されています。在タイ日系企業では、人手不足に悩む日本国内よりも生産キャパシティがあるほか、サプライヤー網が発達していることで部品供給の安定化が図れることが期待されています。

他方、中国からの代替案件において従来の中国製品と比べタイでの製造原価が高くなるために利幅が取れない、タイでの生産品についても部品に中国製を使っており調達先を変更する必要があるといった新たな課題も生じています(図表1)。

[図表1] 在タイ信用金庫取引先における中国からの調達拠点分散にかかる声

- ・大手取引先が中国工場の縮小・閉鎖を進めており、生産を既存のタイ工場に移管している。これに伴い、当社から調達する部品量が大幅に増加した。(精密部品製造業)
- ・取引先より中国からの転換案件として部品供給を依頼されているが、単価が安く受注するかどうか思案している。生産ロットは大きいものの、設備導入が必要となる可能性もあり相応のリスクがあると感じている。(自動車部品製造業、エアコン部品製造業)
- ・取引先より中国からの転換案件を受注することができているが、同時に自社の資材についても中国製を使わないよう依頼されており、ベトナム製の資材を探している。(自動車部品製造業)

- ・取引先から安定供給のため自社製品の資材について中国製品を使わないように依頼されているが、同時にコストカットも求められているため板挟みの状態となっている。(自動車部品製造業)
- ・大手取引先から供給部品の増産について打診されている。中国リスク上昇により取引先内でもタイ、ベトナムへの製造移管が検討されているようである。(精密部品製造業)
- ・台湾の大手取引先が今後の中国との政治的関係悪化を懸念して、中国からタイの日系企業へ調達先の変更を検討している。一方、台湾との取引は、中国と同じくらい政治的なリスクがあると感じており、取引には慎重に判断していきたい(プレス製品製造業)。
- ・中華系企業についてもタイへの製造移管が進んでいるようである。タイにおける中華系企業のサプライヤー網は日系と比べて未発達であることから、当社にも相応の調達案件が来ている(電装部品製造業)。
- ・取引先からコスト削減のため中国製部品の仕入れを求められているが、中国製品はのちに価格を上げられるリスクがあることから、中国製品はできるだけ仕入れないようにしている(自動車部品製造業)。

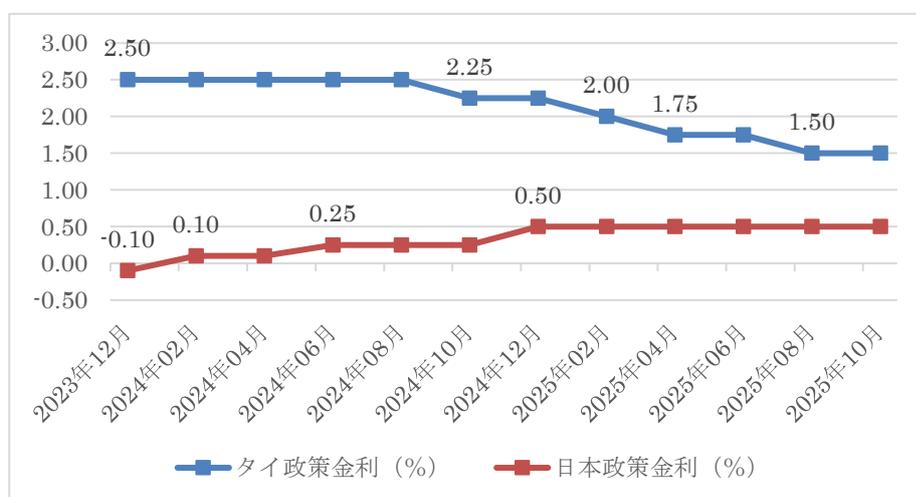
このような動きを背景に新たな資金需要が発生するなか、為替動向を踏まえた現地通貨建て借入の活用等によるリスク低減が重要となっています。

2. 信用金庫取引先における為替変動リスクに対する対応状況について

(1) 政策金利、市場金利は昨年後半より低下に転ずる

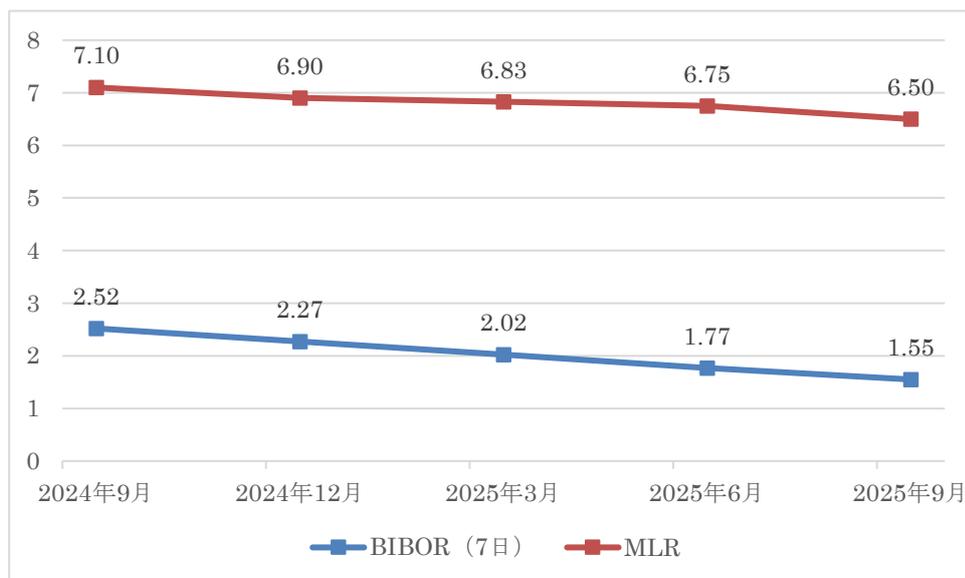
タイ中央銀行は、政策金利をアフターコロナ以後のインフレに伴い 2023 年に 2.50%まで引き上げましたが、2024 年 10 月以降は政策金利の引き下げを続けています。一方、日銀の政策金利は昨年 12 月政策金利の引き上げを続けており、金利差は 2.60 ポイント(2023 年 12 月)から 1.00 ポイント(2025 年 10 月)に縮小しています(図表2)。これに伴いタイの市場金利も低下しています。バンコック銀行の借入れ金利(BIBOR:大手企業向け、MLR:中小企業向け)も低下しており、タイで資金の現地調達を行いやすい環境となっています(図表3)。

[図表2] 政策金利の推移(%)



(出所)BOT ホームページ、日本銀行ホームページより作成

[図表3] バンコック銀行の貸出金利(%)



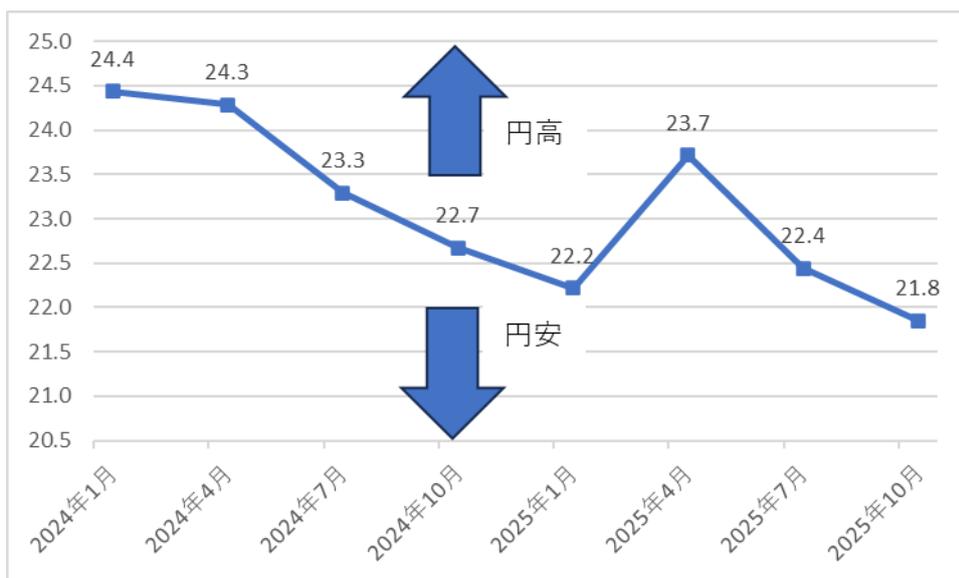
(出所)バンコック銀行ホームページより作成

(2) 円安バース高が続くも、信用金庫取引先の為替変動対策が進む

足許の日タイの金利差縮小にもかかわらず、円安バース高の状況が続いています(図表4)。

足元の為替変動によって借入や日本企業との貿易に影響がでている信用金庫取引先が増えていきます。また、現状の金利差縮小を踏まえると、今後円高バース安に転じる可能性もあります。上記を踏まえ、信用金庫取引先においても、為替リスクを低減化する体制整備を進めている企業が増えていきます(図表5)。

[図表4] バース/円の月平均為替相場推移(TTM) (単位:1/100)



(出所)BOT ホームページより作成

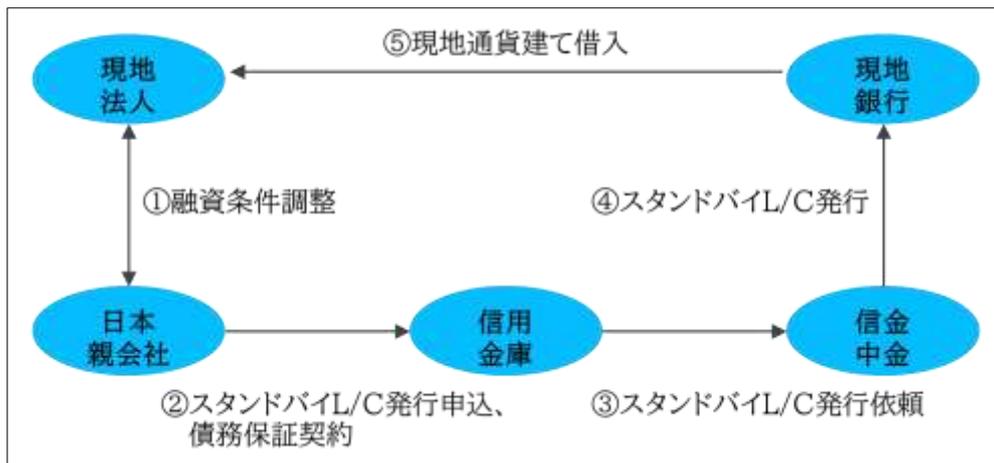
[図表5] 信用金庫取引先における円安パーツ高にかかる対応状況

- ・円安パーツ高が続いており、円高に逆転する前に円建ての借入の返済を進めている。(塗装業)
- ・資金調達を行うにあたり、今後の為替相場の見通しがたっていない。今後、円建ての借入れを行うに当たって、為替ヘッジを行うことを検討している。(自動車部品製造業)
- ・円建てでのローンについて、パーツ建てでの借換えを検討している。昨今の金利差縮小を踏まえ、今後円高に振れる可能性も相応にあるとみている。(金属部品製造業)
- ・円安パーツ高によって親会社との取引で為替損が拡大していた。為替リスクを排除するため、親会社との取引について円建てからパーツ建てに変更してもらった。(自動車部品製造業)

(3) 信用金庫業界における現地通貨建て借入スキーム

為替変動対策として、現地通貨建てでの資金調達が一つの手段となり得ます。信用金庫業界においては、スタンドバイ L/C(金融機関が海外金融機関に対して債務保証のために発行する信用状)を活用した現地通貨建て借入のスキームをご用意していますので、足許の為替変動を踏まえた調達方法についてお気軽にご相談ください(図表6)。

[図表6] スタンドバイL/Cの概要



3. おわりに

中国から東南アジアへ調達拠点分散を図る企業の動きが高まる中で、多くの日系企業が進出しているタイが注目されています。中国からの代替案件受注に伴う課題はあるものの、新たなビジネスチャンスが期待できます。

また、足元では円安パーツ高が続いている一方、日タイの政策金利差縮小を踏まえると円高に転じる可能性を考慮する企業も見られ、資金調達の際の通貨の見直しをはじめとした為替リスクを低減化する動きが信用金庫取引先で強くなっています。

信用金庫業界では、タイ現地銀行の金融サービス等を通じた課題解決のサポートを行っておりますので、お近くの信用金庫までご相談ください。現地銀行出向者が現地法人の訪問やオンライン面談等により詳細のご案内をさせていただきます。

<編集・発行>

信金中央金庫 海外業務推進部 企画グループ
東京都中央区八重洲1丁目3番7号

Tel: 03(5202)7703

E-mail: s1000860@facetoface.ne.jp

<信用金庫使用欄>

本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。したがって投資等についてはご自身の判断によってください。また、本レポート掲載資料は、信金中央金庫が信頼できると考える各種データにもとづき作成していますが、信金中央金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。